

No. 1655

日中関係改善へ —— 江総書記来日 ——

1989年6月の天安門事件以来、初めての中国首脳として江沢民中国共産党総書記が4月6日来日しました。元赤坂の迎賓館で閲兵のあと、出迎えの日本・中国の人々と握手。その後開かれた日中首脳会談で宮沢首相は国連平和維持活動（PKO）協力法案への自衛隊参加に理解を求めるが江総書記は「慎重に対処して欲しい」と懸念を表明。一方江総書記は天皇・皇后の今年中の中国訪問を招聘。宮沢首相は「前向きに検討したい」との発言にとどまりました。これを機会に、今後両国は一層の関係強化を図っていくことを確認しました。

温泉ラッシュに湧く —— 山梨・笛吹川 ——

30年前ぶどう畑から湧き出た温泉が発展して今や東京の奥座敷といわれる観光地となった山梨県の石和温泉。この笛吹川の上流で石和に負けまいと温泉の掘削ブームが起きています。牧丘町の建設会社社長は昨年会社の敷地内を掘ったところ一発で成功「夢のようだ」と喜んでいます。毎分490ℓ、39度のアルカリ性の良好なお湯でこの秋には露天風呂付の休養施設にして地元のいこいの湯にしたいと張り切っています。一方、3年前に掘り当てた建設業者も温泉が見つかったことに感謝して、神社を湯元のそばにつくり祭っています。7月からのオープンをめざしてガラス張りのレストランと大浴場の工事が進んでいます。開場するまで湧き出たお湯は川沿いに露天風呂をつくり仕事の終わった社員や地元の人々に無料サービス。経営者は将来はホテルもつくり観光名所にしたいと意気込んでいます。もっと上流にある川浦温泉の旅館ではより湯量をふやそうと新しい温泉の掘削に成功。毎分700ℓの湧湯量は県内最大級とあって、夏休みに間に合うように配管工事を急いでいます。民間業者の成功に刺激されてか牧丘町自体も高齢者福祉や観光の目玉として1億円の予算をかけてボーリングを開始しました。これまでにも県内で多くの市町村が掘削や調査をしているものの掘り当てた所は少ないようです。お湯の出る1000mの深さまで掘るには秋までかかるとか。笛吹川の上流に湧き出た温泉が起爆剤となって「一大温泉リゾート地」になれるかどうか期待したいものです。